

平成23年 8月25日
都市整備部田園都市づくり課

平成23年度「歴史のみち景観モデル地区」の選定について

県では、NPO、市等と一緒に旧街道や旧宿場町などに埋もれている歴史的景観資源を保全・活用するまちづくり「歴史のみち景観形成プロジェクト」に取り組んでいる。

今後、地域における景観法の活用等の取組みを推進するため、県では「歴史のみち景観モデル地区」の選定を進める。

○歴史のみち景観モデル地区の基本的考え方

埼玉県には旧街道を中心に数多くの歴史的景観資源が存在する。平成22年度に実施した地域景観資源発掘調査では、県内の61ヶ所の旧宿場町等において2000件以上の景観資源が抽出されており、これらをまちづくりに活かすことは、都市化が進展し地域アイデンティティが弱いと言われる^{※1}本県の地域活性化のために大変重要である。

このような中、平成16年に景観法が制定され、一部の市町村では景観計画の策定が進んでいるが、大部分は大規模建築物等に対する色彩制限の導入等に止まり、個々の良好な景観資源の保全活用やその担い手づくりに踏み込んでいる事例は非常に少ない。

そこで、本プロジェクトでは市町村とともに、「地域住民が主体となった景観法活用によるまちづくり」のモデルを構築し、県内全域に波及させることを目的として、「歴史のみち景観モデル地区」の選定を進める。

※1 H17.2 県民意識調査報告書による

○歴史のみち景観モデル地区の選定基準

- ・宿場町や城下町としての機能を有していた地区であり、歴史的な景観資源^{※2}がまとまって存在する地区
- ・市町村やまちづくり団体等の景観保全に係る活動が活発な地区

※2 歴史的な景観資源とは文化財等に限定されるものではない。寺社や古い建築物、蔵、石碑、石垣、路地、樹木、水路などの地域の良好な景観を構成する歴史的資源のことを指す。

○選定スケジュール及び支援内容

- ・平成27年度まで年間3地区程度をモデル地区として選定する。
- ・各地区に対して、原則3年を限度として景観まちづくりイベントの企画・後援、景観法の活用等の支援を実施する。

○歴史のみち景観モデル地区（平成23年度選定）

平成23年度は以下の3地区をモデル地区として選定する。

- ・吾野地区（飯能市坂石町分、国道299号沿線）
- ・深谷宿地区（深谷市稲荷町～田所町、旧中山道沿線）
- ・妻沼地区（熊谷市妻沼、妻沼聖天山周辺）

○各地区の現状と目指すべき方向性

【吾野地区】

・飯能や秩父周辺地域の物資を集散する市に伴い宿場的機能が発達した場所。国道299号沿いには赤いトタン屋根と出桁造りの素朴な民家が数多く建ち並び、美しい高麗川沿いでは船着き場跡や石段など川に密着した生活があったことも伺える。奥武蔵をめぐるハイキングコースの拠点にもなっている自然に恵まれた山里。

・まちづくり団体「吾野宿再生と吾野を語る会」が中心となって実施する「吾野宿市」に伴う景観まち歩きイベントを実施する。景観整備機構・埼玉県建築士事務所協会や地域住民等による景観協議会を組織し、街道と高麗川沿いの統一感のある景観を保全するための景観協定の策定を目指す。

【深谷宿地区】

・江戸時代には80軒ほどの旅籠があった中山道最大級の宿場町。近代以降はレンガ製造で繁栄し、数多くのレンガ造の歴史的建造物が散見される。旧七ツ梅酒造や柳瀬商店レンガ倉庫の再生など、まちづくりNPOやTMOによる中心市街地活性化の取組も盛んになってきている。

・NPO団体「深谷にぎわい工房」と協働し、景観まち歩きイベント等を実施する。レンガ造の歴史的建造物の保存活用について、今後検討が予定されている地域のまちづくりの方向性や現在施行中の中央土地区画整理事業との連携を図りながら検討する。

【妻沼地区】

・斉藤実盛が祀ったと言われる妻沼聖天山を中心に門前町として栄えた場所。この6月に7年に及ぶ大修理を終え一般公開されている極彩色の本殿は見応えがあり、特徴的な屋根形状の山門も地域のランドマークとなっている。聖天山へアクセスする商店街では、街中ギャラリーや絵看板の設置など歩いて楽しめる道づくりが地域によって取り組まれている。

・景観行政団体である熊谷市と協働し、景観まち歩きイベントや景観まちづくりに関する講演会を実施し、地域住民による商店街の更なる景観向上を目指す。